

や不安が消え、じっと見守ろうとする
雰囲気さえうかがえた。それは車中の
一隅の教育の輪のようにも思えた。そ
こにかかり合った人々が、何かを与
え合おうとする環境にも見えた。

何十回くり返しただろう。しっかりと
と結ぶことのできた「ふろしき」を両
手でしっかりと抱え、ゆっくり顔を上げ
たとき、その目には白く光るものがあ
った。

「ありがとうございます」

感動的なお礼の言葉であった。

その喜びは、少女のものだけではな
かった。例の婦人が「よくがんばった
ね」と励ましの言葉を送った。少女は
ながすぎる程の黙礼をして下を向いた。
ここに本当の「思いやり」を見るこ
とができた。

とかく「思いやり」の不足がちな現
実に、美しい物語を見たような気がし
た。

自分という人間を絶えず追求し、困
難や障害を克服して、自己の必要な経
験を果たそうとする少女の行為に深く
感動した。

自己を、生涯にわたって教育し続け
る意志の形成がさげられる今、自己教
育力の礎をここに見たような気がした。
苦しみに耐えて、力強く生きる姿が
私たちの心を強く打つ。

(いわき市立夏井小学校教頭)

母の味

三瓶光子



大正生まれで農家育ちの母は、旬の
味をよく知っていて、季節の香りをつ
けこんだ即席づけや、野菜をふんだん
に用いた料理が得意です。寒い季節が
くると、大根のひきな炒りや白菜、に
んじんなどを魚といっしょに煮こんだ
もの、凍豆腐の煮つけなどを気軽にた
くつくくれます。手料理のあたたかさ
をしみじみと感じさせてくれるものば
かりです。

母の味は、食べることの満足感が
りではなく、体調を整え生活のリズム
の基になるものでもあります。かぜひ
きで、食欲がなくなっている時、真綿
のようなおかゆと、ニラ卵汁の滑らか
さを通して、母の愛が身体いっぱい
にしみてくるようで、かぜの回復を早め
てくれたものです。

このごろ、特に「母の味」をかみし

めるようになってきたのも、背をまる
め、厚手のくつ下をはいて台所に立っ
ている母（いまもいっしょに生活して
いる実母）の姿にじーんとするものが
あるからです。

大根をつけたり、干し柿をつるす母
の手の荒れや指の関節の変形が最近と
くに目立ってきたような気がします。

私が子どものころのおやつといえば、
さつま芋をふかしたのもや焼きおにぎ
りなど、素朴な味のものでした。また、
真赤に熟したグミの実などは今でも懐
しく思う味の一つです。

このごろでは、おなかがすくと、い
つでも手軽に、自分の好きな食べ物を
口にする事ができるようになり、独
特の味というのは、名のある店の名物
の味と思われているくらいがあります。
子どもたちへの手づくりのおやつも
スナック菓子におされ、手早く空腹を
満足させるものに目がゆきがちで、テ
レビのコマーシャルにのせられて食べ
ているように思います。

私も二児の母でありながら、手づく
りのおやつ一つつくってやれない母親
である自分自身を腹立たしく思うので
す。

帰宅すると、「うまいこ（おいしい
もの）は……？」とおやつをねだって
走りよってくる長女。

母からの味わいとして学んできたこ
とを、自分の子どもたちにとどのよう

味として伝えてゆくかが、私のこれか
らの大きな務めのような気がするのだ
です。

年離れた母に、いまだにおんぶにだ
つこの私。でも、わが子の子育てをし
てみて、私なりの味づくりに努力して
みようと考えているようになってきた私
です。

(福島市立夏井中学校養護教諭)

K君との出会い

安藤トキ



「ゆっくり ゆとり 確かな運転」

と自問自答しながら車上の人となり、
早朝に市内のラッシュ時を避けて静か
な山なみを幾つも越え目的地に向いま
す。訪問時間調整の休憩を目的の地近
くで取ります。在宅訪問教育、四月から
K君の担任になりました。K君は難病
のため両下肢機能に著しい障害があり
歩行ができません。

あいさつをし、家族との話し合いを